

『みんな』でつくり『みんな』でささえる 『みんな』のための 立命館 生協



コロナ禍による静かなキャンパスを経て、いま、学生が集い、にぎわう新しい形のキャンパスライフが戻りつつあります。生活様式や価値観が大きく変化する中でも、立命館生協の使命は変わりません。

2009年5月の第83回総代会で確認された『みんな』でつくり、『みんな』でささえる、『みんな』のための立命館生協』という理念は、今も私たちの活動の根幹にあります。

組合員一人ひとりの生活を支え、そして『みんな』でより良いキャンパスライフを創造していく——それが立命館生協です。

第99回 総代会特別号について

この冊子は、2025年5月24日（土）に開催された立命館生協第99回総代会の内容をまとめたものです。会議で提案された方針や当日に交わされた発言の一部を、抜粋してご紹介しています。

総代会ってなに？

総代会は、生協における最高議決機関であり、生協法や定款により、事業年度に1回以上の開催が定められています。

総代会では、前年度の事業報告と決算の承認、新年度の事業計画・予算の決定、そして生協を運営する理事・監事の選出が行われます。

次世代の大学生協へ

昭和時代（と、もう言ってもいいでしょう）の最後に、私は立命館大学で学びました。もちろん、生活協同組合（以下、生協）は学生生活を支えてくれる頼もしい存在でした。当時の中川会館（現・至徳館）地下の購買部では、入口に家電製品が並び、売りもののハズのテレビで、硬式野球部OBのプロ野球日本シリーズでの活躍を応援していました。

しかし、現在では家電製品は大型量販店での購入、さらにネット購入からの自宅配送の時代になりました。古書も含め、書籍の購入はネット購入が一般的になってきました。そういえば、私もパソコンやスマホでメモを取り、最近では筆記用具の購入はあまりないように思います。プリントステーションの普及によって、コピー機の設置も見直されています。これらの時代の変化に対して、一部から「生協は怠慢だ」と厳しい意見をいただくこともあります。しかしこれは、以前の「学生生活」から新たな「キャンパスライフ」への変化であって、必ずしも生協活動の衰退ではないと思います。

電子レンジやカップ麺への大型給湯器の設置、スマホでのオンライン決済や、レジ決済のセルフ化、さらに無人コンビニの実現などは、いまの「キャンパスライフ」を応援するに欠かせない設備です。もっとも要求の高い食生活についても、食堂だけでなくキャンパス内での弁当販売、そして全国的にも注目されている「100円朝食」のアイデアは、限定的とはいえ「100円夕食」へと展開しています。健康的な食生活を応援する「ミルククーポンシステム」の導入など、生協での食生活は単なる「安

立命館生協 理事長 河原 典史 文学部教授

い」食事を提供する時代から進化しています。「もっと魚を食べたい！」という要望に応じて、不定期ながらも「おさかなフェア」も開催しています。また、保健センターとのコラボで「ヘルシーキャンパス企画」や、多様化する留学生に対する「ベジウィーク（ベジタリアン向けメニュー）」なども継続的に実施しています。

活字離れといわれる学生に向けても、生協は工夫を怠っていません。オープンキャンパスでも、新刊を出版した本学教員とのトークイベントや、今年に90周年を数える「京都大水害」に関するブックフェアなど、次世代研究大学を目指す立命館大学のサポートをしています。また、2024年年初に起こった能登半島地震への募金呼びかけや、ご当地食の販売促進など、学生が主体となる活動を応援しています。

2020年からの3年間、世界を襲ったコロナ禍は、立命館大学のキャンパスライフを支える生協活動にも暗い影を落としました。どうしても、経済的な影響を受けざるをえませんでした。幸いなことに当時のマイナスは挽回できています。現在ではコロナ禍以降、いや新しいステージに向かって、生協は挑戦を続けています。これらの活動が周知されず、「生協の怠慢」とお叱りを受けるのならば、今後より積極的な広報に努めてまいります。懸案の1つである衣笠キャンパスの旧レストラン「カルム」についても、新しい「キャンパスライフ」、そして立命館大学を訪問する多くの人びとに愛される店舗としてのスタートを計画しています。今後とも、立命館大学生協へのご支援をお願い申し上げます。



総代会からはじまる2025

2025年5月24日(土)開催 第99回総代会

立命館生協の新たな1年は、毎年5月に開催する総代会から始まります。

前年度の決算・取り組みの報告とともに、今年度の予算・方針を組合員の代表である総代の皆さんにご審議・ご承認いただきます。

本号では、2025年5月24日(土)に開催された第99回総代会の様子をご紹介します。

「みんな」でつくった2024年度～2024年度の活動と決算のご報告～

組合員同士のつながり作りの場となる「立命館生協」

2023年度に延べ463万人だった生協事業の利用者数は、2024年度には延べ471万人へと拡大しました。特に100円朝食は1日あたり約1,000人の利用があります。

また、夕食限定メニューや100円夕食、週替わりの食堂フェア、購買におけるデザート企画やポイント還元企画など、多様な取り組みを通じて、幅広い組合員の利用につながりました。学内団体とのコラボレーションによる食堂メニューの企画も広がり、学内交流の促進にも寄与しています。

組合員の学びと成長を応援する「立命館生協」

海外インターンシップに参加した先輩学生による報告・相談会を開催し、留学や国際経験に挑戦する学生を後押ししました。また、学習用機器(PC・iPad等)の購入・利用も多く、学習環境の整備を支援しました。

組合員が健康・安全に生活するパートナー

「立命館生協」

2024年度における学生総合共済の給付件数は2,105件、給付総額は1億2,303万円にのぼりました。加入者数も21,651人となり、毎年増加傾向にあります。

また、卒業予定者を対象に「社会人になるためのお金のセミナー」を実施し、社会に出る際に備えるべきリスクや生活設計について学ぶ機会を提供しました。

立命館学園の魅力アップに貢献する「立命館生協」

2024年4月には、大阪いばらきキャンパス(OIC)にテイクアウト弁当の専門店を新規オープン。加えて、BKCリンクミールショップでは無人化による営業時間の延長や土日営業の拡大を進め、利便性の向上を図りました。

平和・環境・SDGs等・社会貢献につながる

組合員活動を支援する「立命館生協」

テイクアウト弁当容器の回収・再利用によるごみ削減の取り組みを進めました。

また、能登半島地震および能登豪雨災害の支援として、食堂のライスやテイクアウト弁当の利用1食あたり5円を募金に充てる活動を実施。期間中に29,338食のご利用があり、合計146,690円の募金が集まりました。さらに、「大学生協助け合い奨学制度」では15人の学生への給付が実現し、117万円の寄付が寄せられました。



組合員とともに、つながり広がる生協へ

2025年度の事業環境

食とくらしを取り巻く厳しい環境

お米をはじめとする食品・食材や人件費の高騰は、組合員の食費・生活費に大きな影響を与えています。こうした中、生協は持続可能な生産と消費、食糧安全保障、気候変動対策、人間らしい働きがいのある仕事の創出、誰もが参加できる社会の実現など、SDGsのさまざまな目標に貢献する協同組合として改めて評価されています。

キャンパスの学びのスタイルが変わる

立命館大学では、2025年度から「授業時間割の変更」が実施され、登校日数の減少とともに、中長期休暇の拡大が予定されています。これにより、留学や資格取得など、学び・体験・成長の機会が広がる見通しです。

5つの柱で支える2025年度の活動方針——交流・学び・健康・利便性・社会貢献

組合員が集まり・交流し・参加・参画のある事業と活動をひろげます

組合員が「楽しい」「また来たい」「友達にも教えたい」と思える活動を広げます。参加型イベントや交流企画を通じて、楽しく学び・成長できる場をつくります。生協は、先輩や教職員の声、友人とのつながりを生かしながら、生活・学びの総合的な支援を行います。また、共済加入など「いざという時の備え」の大切さも伝えていきます。

組合員の学びと成長を応援する事業と活動を推進します

日々の食事からの食育をはじめ、大学生活に必要なスキル・経験をサポートします。入学準備・キャリア支援・社会人への移行期支援など、ライフステージに応じた取り組みを展開します。

組合員の健康と安全を支える事業と活動を広げます

健康的な食生活の実践の場を提供するとともに、一人暮らしに伴うリスクへの備えを支援します。学生総合共済の給付事例を活用し、未然に防ぐための予防啓発活動にも取り組みます。

組合員の声を生かし、利便性の向上に努めます

混雑時でも快適に利用できる環境づくりに取り組みます。セルフレジや無人営業、AI発注の導入、下宿斡旋のオンライン相談・重要事項説明など、利便性を高める施策を推進します。

BKCでの大規模改装と食の課題

BKCではユニオンスクエアの改装が予定されており、施設改善とあわせて工事期間中の「食の提供」が大きな課題となります。加えて、2026年度にはデザインアート学部(仮称)の新設や衣笠キャンパス再整備も計画されており、中長期的な施設対応が求められます。

危機を乗り越え、未来への投資へ

コロナ禍には単年度4億円を超える赤字を計上しましたが、組合員の生活を守る事業を継続し、多くの皆様のご協力により、累積赤字は解消。現在は、今後の施設投資にも対応できる経営基盤を整えつつあります。

各キャンパスの進化と利便性向上

APUでは、2025年4月に「パシフィックカフェ」のリニューアルオープンが予定されており、BKCユニオンの改装工事も進みます。各キャンパスにおいては、食堂・ショップの営業時間延長や無人営業の導入など、利便性の向上にも取り組んでいます。

組合員が大学・地域社会に貢献できる事業と活動をすすめます

食や環境を通じた社会貢献や、大学オリジナルグッズの開発などを進めます。また、災害ボランティアへの参加を支える学習機会の提供にも力を入れます。

2025年度予算

- 供給高 46億687万円
前年比 ▲9,862万円(前年増減比▲2.1%)

供給計画の特徴点

2025年度は授業時間割変更やBKCユニオン改装により来店減が予想されますが、弁当や焼き立てパンなどの食事提供の工夫をすすめます。100円夕食など物価高対策も推進します。旅行・書籍事業は利用減が予想されていますが、工夫しながら展開予定です。

- 事業総剰余金 13億8,858万円
前年度比 ▲1,398万円(▲1.0%)
- 事業経費 13億9,847万円
人件費 8億7,304万円(前年比+2.7%)
物件費 5億2,043万円(前年比▲3.1%)
- 税引前当期剰余金 920万円(前年度差▲3,347万円)

この声、これからを動かす

— 総代会での発言より —

総代会当日は出席された総代、オブザーバーから壇上での発言、書面での発言を含め20本の発言がありました。その中から一部をご紹介します。他の発言については立命館生協ホームページに掲載しております。



当日発言のようす

APUの健康の取り組みへの要望

Q 現在のショップ、カフェテリア店舗では、健康に関する取り組みが行われているがあまり組合員に浸透していない。

また、APUは山の上であり通学中の事故や病気になるリスクが高い。したがって、健康に関するイベントを学生委員だけでなく立命館生協全体で行う必要があり、組合員の健康な生活を支える重要な取り組みであると主張する。

A 組合員の皆様の健康な生活を支えることは、立命館生協全体としての重要なミッションとして捉えております。今後は全体で以下の点にて強化・対応をさせていただきます。①健康に関する情報発信強化 ②健康イベントを通じた取り組み（通学中の安全意識高めるための啓発活動含む）③店舗での食生活相談会、多様な食のニーズに対応する体制づくり ④保健センターや地域と連携し専門的な知見も含めて質の高い健康支援を提供 これらの取り組みを通じて健康増進の取り組みを強化します。

パソコンスキル講座への要望

Q パソコンスキル講座のコアリーダーを務めている。今年受講生が1070人スタッフ127人を抱える大きな事業。カリキュラム作成から新規スタッフの採用研修まで学生が行っている。現在開講中で、パソコンが苦手な人が多いという印象。みんな楽しく、学んでくれ、満足度97%成長を実感した受講生90%の有意義な講座。しかし、現在担当職員が1人しかいないので、サポート体制が不十分。要望としては職員を増やしてほしい。サポート体制を十分にしてほしい。

A パソコン講座は先輩から後輩へ、の立命館大生向けの生協オリジナルコンテンツとして毎年改善しながら続いてきた講座です。準備期間も含めリーダーの皆さんはもちろん、コアリーダーの方々の奮闘にこの場を借りてお礼と、頑張りには敬意を表します。生協としては学び事業はこれから先、ひとつの柱にと考えている事業です。人的リソースの集中のさせ方や、パソコン講座に限らず学生組合員の学びをサポートする事業の仕組みも合わせて検討が必要とあらためて認識します。体制は人事なので安易にはお答えできませんが、学生リーダーの方からの提起という点ではきちんと受け止めたいと思います。

OICカフェテリアの待機行列の改善について

Q アプリレーンで現金チャージする利用者がいるので予期せぬ遅延が発生。生協アプリのみ利用可能現金チャージ可とチャージ不可を分けるレジ配置することで混雑緩和できないか。

他の店舗もあるが、価格や利用サービス時間などの観点から実情として、生協食堂一択となっているため混雑している。簡易な事前注文システムの導入試験をやってみたが、待機時間に改善が見られなかった。

A 大学の理解を得ながら現場の店長と調整し、秋 semesterから実施できるよう準備を進めてまいります。生協内での新たな取り組みとして事前発注システムを開発中です。引き続き混雑解消を強化しつつ、新たな取り組みも含めて対応してまいります。

食堂価格についてとセルフレジについて

Q 食堂の値上げが続いていて、物価高とか流通ドライバーの状況とか事情はわかるが、学生もバイト代が上がっていると言っても実質賃金アップではない。生活費は大変。安心、安全と言っているが、以前はあったレシートの栄養表示がいつのまにかなくなってしまった。SDGsかもしれないが、急に、言わないとそもそもレシートも出ないようになった。わりばしもゴミになるのに、就活の宣伝で使われたりする。インスタントラーメンばかり食べている友人もいる。生協は高い、という声ばかり。値上げしても利用できる、払える学生のためだけの安心・安全になっているのではないかと「値上げをしない」と宣言するところもある。経費削減や黒字化の話があるが、有人レジが減っている。雇用は守られているのか？ 経費削減は雇用削減なのではないか。

A 組合員の食生活をサポートする生協としましては、最小限の値上げの対応とさせていただいております。引き続き、組合員の食生活を守るべく様々な活動を今後行っていきたくと思います。レシート表示につきましては、ご指摘の通りレシート印字は無くなりましたが、アプリでは履歴や栄養価表示は見る事が可能です。有人レジの削減につきましては、単純に労働力では無く組合員の利便性の観点で導入をさせていただきました。

丼ペリの回収について

Q 丼ペリの回収ボックスを増やしてほしい。例えば法学部等では大教室の前など肝心なところがない。回収率UPを目指すのであれば同時に利便性の向上も必要ではないか。

※「丼ペリ」は、生協弁当のリサイクル容器（リリパック）の立命館生協オリジナルの名称です。表面フィルムをはがすだけで簡単にリサイクルできます。ペリっとはがすことがわかりやすいように生協学生委員会が名称を考案しました。

A ご指摘の通り、回収における利便性の観点では回収箇所を増やした方がよい一方で、回収にあたる人員が不足している実情もございます。まずは現在の回収場所または各生協店舗への回収を周知徹底し、組合員の皆さんに「どんペリを返す」ことを意識的に行動いただけるように進めたいと考えております。引き続き回収のご協力をお願いします。



ミールシステムについて

Q 他大学（龍谷大学）の生協においては市販の商品（アイス、お菓子含む）がミール対象商品となっている。生協食堂の値上げとともに市販食品のニーズが学生たちの間で高まっているように感じる。本学生協もミールシステムで市販商品を買うようにしてもらいたい。

※ミールシステムは、生協食堂の「年間利用定期券」のような仕組みです。例えば1日650円のプランなら、毎日650円分まで食事に利用できます（未使用分の繰越は不可）。授業日の年間分をまとめて購入することで、割引価格でご利用いただけます。

A 組合員のみなさんの食を取り巻く経済環境が厳しい状況は生協としても受け止めています。ミールシステムはバランス良い食事を通して健康な体作りを目指した制度となります。他の大学生協での取り組み状況も調査しながら適用範囲の拡大など検討を進めます。

2025年度 立命館生協理事・監事

第99回通常総代会では次の方々を理事・監事として選出されました。同日、第1回理事会で役員互選も行われましたので、あわせてお知らせいたします。1年間よろしく願いいたします。

氏名	所属・学部	回生	役員区分
河原 典史	文学部	教員	理事長
小沢 道紀	食マネジメント学部	教員	副理事長
佐藤 浩人	APU 国際経営学部	教員	副理事長
須藤 智徳	APU サステナビリティ観光学部	教員	理事
近藤 宏一	経営学部	教員	理事
山田 悟史	理工学部	教員	理事
和田 篤史	立命館中高教諭	教員	理事
加藤 義徳	教学部衣笠学びステーション	職員	理事
大藪 康成	BKC 地域連携課	職員	理事
成瀬絵里佳	教学部アカデミック・オフィス	職員	理事
曾谷 直樹	衣笠学生オフィス	職員	理事
橘 光誠	食マネジメント学部	2回生	理事
杉村 聡之	生命科学部	2回生	理事
石谷 旬	政策科学部	2回生	理事
金山 知生	政策科学部	2回生	理事
古川 怜志	文学部	2回生	理事
寺坂 風香	APU サステナビリティ観光学部	2回生	理事
棟方 遥香	APU サステナビリティ観光学部	2回生	理事
権田 明莉	産業社会学部	2回生	理事
神原 日菜	産業社会学部	2回生	理事
荒川 優菜	生命科学研究所	M2	理事
神村 寛	社会学研究科	M2	理事

西浦 敬信	情報理工学部	教員	監事
金森 絵里	経営学部	教員	監事
中村 天翼	学生オフィス (BKC)	職員	監事
金 美伶	APU スチューデント・オフィス	職員	監事
菊地 崇文	食マネジメント学部	2回生	監事
鎌谷 有琉	経営学部	2回生	監事
中村 彩乃	文学部	2回生	監事